

公共施設のあり方に関する調査研究委員会

(第3回) 議事要旨

日 時：平成27年2月2日(月)

14:00~16:00

場 所：知立市役所 第10会議室

1. 出席者

《委員長》

恒川 和久 名古屋大学大学院 工学研究科 准教授

《委 員》

和田 明広 市民代表

緑川 道正 (公財) 日本ファシリティマネジメント協会 広報委員

小林 慶太郎 四日市大学 総合政策学部 教授

加古 和市 知立市 企画部長

成瀬 達美 知立市 福祉子ども部長

石川 典枝 知立市 教育部長

藤田 萬豊 (一財) 地方自治研究機構 事務局長

《事務局》

知立市 企画部 企画政策課

(一財) 地方自治研究機構 調査研究部 主任研究員

《基礎調査機関》

中央コンサルタンツ株式会社

(順不同 敬称略)

2. 議事要旨

調査の最終報告として、「公共施設調査（用途別分析）」、「事例調査」、「報告書素案（知立市の公共施設のあり方）」について、説明と質疑応答・討議を行った。

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) 公共施設調査（用途別分析）について

事務局より報告書（素案）を用いて説明を行った。

○質疑応答

緑川委員：

最初にまとめがなく、分析が分かりにくい。言葉が役所言葉になっていて、市民向けとして分かりにくいのではないか。ポートフォリオでも違う指標でまとめている。知立の状況、温暖化への取組など今後どうしていくかが分からない。知立駅で電車を降りても情報がまとまっていなく、市役所に来ると色々な資料がある。

和田委員：

コストの計算がどうなっているかは分からない面もあるが、割とよくまとまっている。

緑川委員：

指定管理を6施設で行っているが、導入の前後を比べて、どう変わったか。PFI/PPPを国は推進している。

和田委員：

アンケート結果で20代、30代の若者が求めているものは何か。

事務局：

スポーツ施設である。

和田委員：

あれば、あるに越したことはないが、どこまでやるかという問題もある。

緑川委員：

先進事例で佐倉市の学校プールの民間委託の事例がある。

恒川委員長：

最初にまとめがないと、全部読むわけにはいかないなので、ダイジェスト版等が必要。例えば、小学校と保育園のどちらを先に対応すべきかが分かるように。

緑川委員：

コミュニティバスが無いと足が無い高齢者は、公共施設を使えない。駅に分館機能

を持たせるなど書かれていない。

和田委員：

今回の委員会は、今ある施設が更新時期を迎えたときにどうするべきかを検討する場と認識している。豊田市でもプールは持っていない。コミュニティバスはガラガラで走っているが、非常に感謝されているとも聞いている。

緑川委員：

佐倉市では、保育園の建替えや消防署の減築などの素晴らしい事例がある。青森県や流山市の事例もある。レーダーチャートの老朽化率で、経過年数だけで判断すると修繕された内容が反映されていないという問題がある。

藤田委員：

今回の調査は、基礎資料を作るのが目的であり、その先の話は次年度以降で良いのではないか。見て分からない部分はあるかもしれないので、ダイジェスト版を作ればよい。

恒川委員長：

調べて分かってきたことは書いておいた方がいいし、課題はまとめて置いた方がいい。

緑川委員：

ベンチマークとして豊田などと比べることはどうか。現状整理だけならば、委員会が必要ないので、こうしていくべきという部分を議論すべきではないか。

事務局：

1章の前に序章として、目的、位置付け、主旨を追加する。市民に公表するには、絵やマンガを付けて噛み砕いて説明していく必要がある。

緑川委員：

白書として公表することを念頭において、まとめておく方がいい。

成瀬委員：

定員が割れている中で保育園を10園維持していく必要があるか議論する必要がある。公表して市民からの意見も踏まえて、数をどうしていくか考えていく必要がある。

恒川委員長：

民間との役割分担、幼保一体の問題もあり、そこまで今回の中で書けるか。

緑川委員：

コストと利用者数の情報を指定管理者は出している。

石川委員：

人件費に含まれているものは、県職員も含むのか。施設維持管理コストと施設運営コストの分けをどのようにするのかも明確にしてほしい。文化会館と学校のように、用途が異なるものを同様の扱いで良いか。

緑川委員：

文化会館では、ボランティアを使ったりしてコストが下がっている。

小林委員：

施設維持コストと施設運営コストを分けているのは、将来、ハコとサービスを切り分けて考えることが可能という意図があるのではないか。人件費の話も所管課の方で、どうということなんだと説明してもらって、まとめる方が良い。色々な人を見ると色々な意見が出ると思われる。

和田委員：

設備を更新するには費用が必要で、予備費や減価償却の考え方も必要。文化会館の問題は、駐車場の確保が問題で、イベント時には違法駐車が多い。

小学校を減らすのは良いが、保育園は減らすのは良くない。また、お迎え車が路上駐車しているので、駐車場の確保は問題である。

データが分かりやすく整理されたので、今まで何となく分かっていたものがよく分かった。市民がこうあって欲しいという声をもっと入ってくると良い。

加古委員：

今まで各施設のコストを把握することは無かった。コストだけで判断することは無いので、職員で共有して色々な意見も踏まえて進めていきたい。

緑川委員：

参考資料のリストを付けて欲しい。

恒川委員長：

それぞれの施設で事情が違うことを理解してもらう必要がある。市民のアクセスの問題や駐車場の問題、学校にはこういった視点、保育園にはこういった視点という部分も必要。

緑川委員：

あとがきは付けるか。

藤田委員：

用語の定義を付けてはどうか。

和田委員：

P155（都市計画マスタープラン）の絵は鉄道が南向き過ぎる。

事務局：

今後は、各課に数字のチェックをお願いする。

小林委員：

その辺りの修正は、委員長一任で委員会としてOKということで良いか。

恒川委員長：

小学校区単位で考えていくということは良いが、現在、不足している分を整備していくということにならないか心配である。

緑川委員：

体育館は一般的に非常に稼働率が高い施設である。

恒川委員長：

市民ニーズは軽スポーツも多いので、施設の名前にこだわらず、機能に着目して再編していくことも必要である。

緑川委員：

広域施設は対象にしないのか。

和田委員：

スポーツ施設の相互利用は行っている。

緑川委員：

防災面で避難のことも考えていく必要がある。

事務局：

2/10 までに意見があれば、頂きたい。3/10 より印刷を予定している。

恒川委員長：

本日の意見を修正したものを私の方に確認し、内容は一任いただくということよろしいか。

今後、委員会で議論された内容が知立市の施策に反映されることを期待したい。

3. 閉会

林市長：

知立市に住み続けたいか人はアンケート結果において、2007 年から 2013 年で着実に増えている。公共施設のあり方について考えることを契機に今後も住み続けたいと思ってもらえるようにしていきたい。

今回の委員会を通じて、知立市の 3 つの特徴を再認識できた。①広域的な公共施設の利用、②面積当たりの施設数が少ない、③現状の施設の質・量に対して多くの市民が概ね満足している、である。急激な縮減ではなく、段階的な削減で快適に公共施設を利用していただけようにして、今後は、人口が自然に増えるような快適なまちにしていきたい。

藤田委員：

最近では、機構も公共施設に関する研究が半分を占めている。会計制度も民間に合わせた形になっていき、今後、費用がどれくらいかかるのかを把握しようとしている。市民の皆さんが使いやすく、我慢するところは我慢して、作るものは作る。今後、今回の成果が再配置計画づくりに活かされていくと思うが、先進自治体でもなかなかそこまで進んでいるところは少ない。

以上